2009 年 7 月 27 日無名録「91 歳現役校長　挑戦こそ教育」

産経新聞 2009 年 7 月 27 日朝刊を読む

91歳現役校長　挑戦こそ教育

１.「うちの校長をしていただけませんか。あなたしか考えていない」

２. 穎明館(えいめいかん)中高(東京・八王子)の理事長から要請されたとき、即座に断った。理由は一つしかない。年齢だ。攻玉社(こうぎよくしゃ)中高(東京・品川)の校長を辞めてから、12 年もたっていた。「なぜという感じでしたね」。岡本武男さん(91)は半年、迷った末に覚悟を決めた。

３. 今年 4 月に校長に就任した。登校後はいつも校内を歩く。校長は生徒の陣頭指揮を執る指揮官、敵情視察という。「志望校はどこだ。できれば入りたいじゃだめだ。入りますといわなければ、入れないぞ」。ホームルームでは 1 分間の黙想をさせる。「頭からお尻まで一直線。息を吸うと吐くに集中する」と生徒に声を掛ける。

４. いすに腰掛けている教師には「座らないと教えられないのか」としかりつける。いつも校内を歩いているので、ゴキブリというあだ名が付いたこともある。

５. 小学校の教師になった 21 歳から、子供と同じ目線でという姿勢は変わらない。

６. 攻玉社時代、素行が悪い生徒の親子を呼び出して「辞めてしまえ」と怒鳴りつけた。「子供はごまかしがきかない。心と体で感じ、面倒をみてくれる教師はわかる」という。17 年間で 1 人の退学者も出さなかった。

７.「子供は興味があれば、どんなに難しくてもやる。興味を持たせ、挑戦させることこそ教育」

８. その一環として、授業とは別に少人数の「特殊講座」を考えている。教師が東洋史や数学など得意なジャンルを徹底的に教える。私塾である。30 キロの歩行大会もやりたい。年齢ではなく、求められていたのはこの熱意だった。

９.「この年です。いつまで校長をするか、できるか、わからない。朝が来て夜が来て、きょう一日悔いのない日を過ごすだけです」

［コメント］

校長として子供のためにできることは何かを 91 歳になっても考え、実行している岡本先生

は尊敬に値する。

今回もそうだが、この産経新聞の無名録はいつも示唆にあふれるコーナーだと思う。

－ 2009 年 7 月 28 日林明夫記－